

## 大部荘関連文書のアーカイブ論

### —大部荘をさらに深く理解するために—

#### はじめに

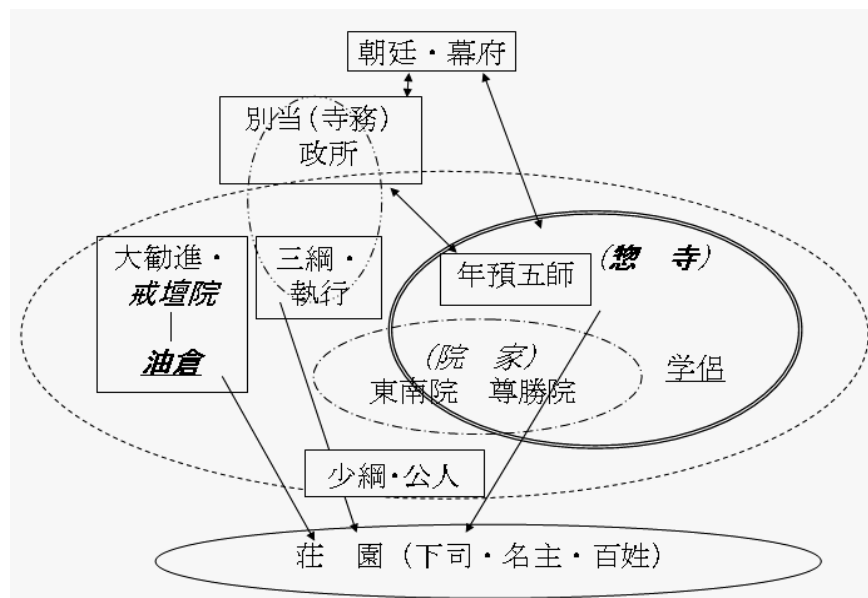
大部荘関係史料を可能な限り集めた『小野市史』は、421点の史料を提示している。そのうち、大部荘の領主であった東大寺に伝来した文書は、95%を超えるものと推測される（他には浄土寺文書）。

東大寺が大部荘に対して権利を持っていたのは、12世紀～16世紀までと考えられる。

しかし、この時期に均質に史料が残っているわけではない。

色々な理由が考えられる。①実際に経営ができなかったために、文書が残されなかった（16世紀には十分想定される。） ②東大寺全体の activity が低下したために、完全な archives が残されなかった。③本来は保管されていたが、火災などによって失われた。④経営主体が複数あり、archives も複数あり、そのひとつが火災などによって失われた。

どのような文書が残っているのか？ なぜそれが残っているのか？ これに対する完全な答えを用意することは、極めてむずかしい。しかし、これに挑戦することで、(たとえ失敗したとしても)、大部荘に対する理解はさらに深まるはずである。



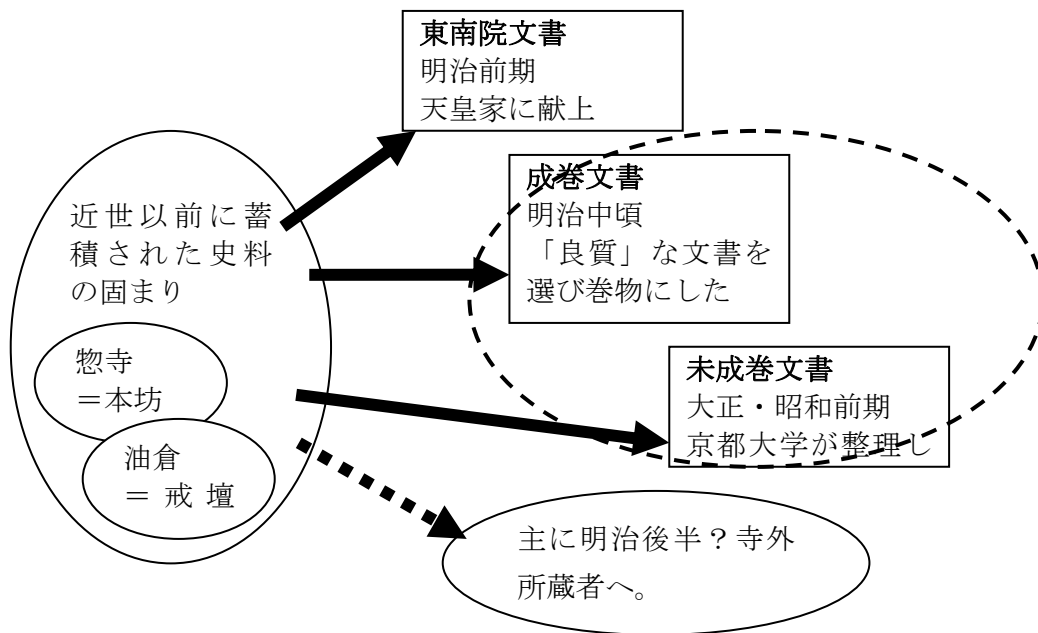
[東大寺の組織]

## 大部荘

現在の兵庫県小野市付近（神戸市の西北）付近にあった東大寺領荘園。久安3年（1147）寺領となった。その後当荘の所属をめぐる国衙と相論になったが応保2年（1162）に寺領として確認された。東大寺復興のために建久元年（1190）勸進上人重源に与えられた。重源は荘内に浄土寺を創建した。建久8年に重源から東大寺東南院主定範に譲られた。預所・雑掌・公文などによって支配が行われた。建保3年（1215）には地頭が設置された。地頭との相論、前雑掌の乱入事件、浄土寺時衆の押領などの事件があり、また元亨2年（1322）以来20年以上も公文職をめぐる一族相論があった。室町時代になると守護赤松氏の勢力がおよぶ。文和元年（1352）に豊福則光が恩賞と称して公文職を押領し、東大寺の支配に抵抗した。その後、康暦元年（1379）、東大寺は正式に、豊福則光を公文職に補任する。享徳3年（1454）には土一揆が発生。その際に、守護赤松氏と関係のあった有力百姓が殺害されている。（『日本荘園史大辞典』、吉川弘文館、より抄出）

## 1 東大寺文書（未成巻文書）について

### （1）東大寺伝来文書全体構造

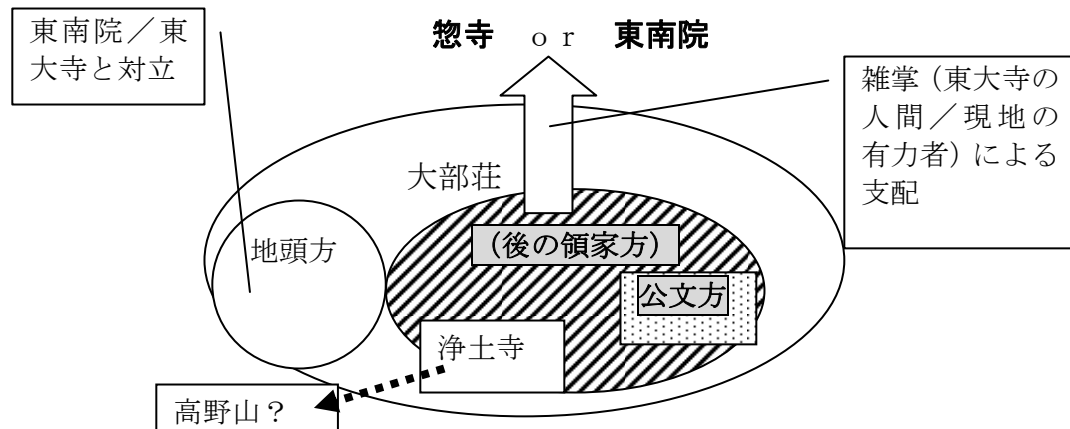


### （2）未成巻文書うちわけ

未成巻文書の検討：未成巻文書は昭和戦前期（1930年代頃）に整理。基準は荘園別・様式別の2つの柱。

分類名	架番号	分類名	架番号
第一部寺領部		摂津 兵庫関	1—15—1～
伊賀 黒田荘	1—1—1～	(略)	
伊賀 玉滝荘	1—2—1～	第三部文書部	
(略)		綸旨院宣等	3—1
大和 河上荘	1—8—1～	(略)	
(略)		請取状	3—10—1～
播磨 大部荘	1—12—1～	文書目録	3—11—1～
(略)		(略)	
遠江 蒲御厨	1—14—1～	第十部未整理文書	10—1～

## 2 経営主体の変化と伝来文書



[鎌倉時代の大部荘概念図]

### 2-1 東南院知行期 I 建久年間～正応5年 1293

建久8年6月15日、重源が、大部荘を東南院定範に譲る (ono224)。

ただし、寛喜・貞永年間頃の預所・地頭との相論に際しては、東大寺惣寺が主体となって、朝廷と幕府に訴える。預所職・地頭職をめぐる相論関係文書 (一一九二 [ono237]・一一六一 [ono240]・一二〇一 [ono244] 各号)。

### 2-2 惣寺知行期 I 正応5 (永仁1) 1293～徳治2年(1307)頃

東大寺八幡宮料所という位置づけ (ono263)

永仁三年前雑掌である大村繁昌が荘内に乱入 (一一五七号、ono269)。

永仁五年は凶作に見舞われた。荘園現地は年貢免除を要求 (一一〇〇号、ono286)。

同六年以降は荘内下村・坂部の地頭の違乱と内部抗争で、荘内は混乱 (一一三〇号、ono291)。

翌正安元年 (永仁七年) 五月には収納を担当する大部荘下向神人勝賢他が、公文名未進分免除を東大寺側に求める (一一九九号、ono301)。六月には、前年永仁六年の収納をめぐ

り下向神人勝賢他と沙汰人貞玄との間で相論（一二三四号、ono302）。  
乾元二年八月日には浄土寺の違乱停止を朝廷に要求する（一一五六号、ono314）

### 2-3 東南院知行期Ⅱ 徳治2年(1307)頃～元応2年(1320)頃

徳治2年6月、東南院が大部荘公文を補任する(ono317)。

### 2-4 惣寺知行期Ⅱ 元亨元年(1321)頃～嘉暦2年(1327)

元亨2年(1322)から公文職一族内での遺産相続相論関係（一二三三号、ono1233）。  
嘉暦元年(1326)・2年、百姓平内が貸した出挙米の返済を求めて、住人金熊丸を東大寺に訴える債務相論関係（一一〇二 [ono349]・一一三一 [ono353] の各号）。

### 2-5 東南院知行期Ⅲ 嘉暦2年(1327)～建武元年(1334)の時期、

東大寺から東南院への交替に伴い、公文一族の相論が再発し、東南院の判決が下る(ono357  
\*これは写しとして後に入ったもの)。

【参考】 一一四一号 ono421 ono371 ono356 が含まれている。

\*『小野市史』『兵庫県史』は編年史料集であり、本来ひとつであるものを、「切り刻んで  
いる」。

### 2-6 惣寺知行期Ⅲ 建武2年(1335)～14世紀後半

東南院から惣寺に大部荘が引き渡される(ono383)。  
公文職相論が、康永・貞和年間にも再燃（一一四一号他、ono421）。  
惣寺は直接経営に乗り出し、年貢算用帳が残っている(ono443)。

【この時期までの伝来文書の特徴】

東南院支配期の文書は残っていない。残っているものは、惣寺支配期のもの。（東南院支配  
の時期でも後日写されたものが、例外的に混じっている）

東大寺文書全体の中でも、鎌倉後期から南北朝期の文書は数が多い。

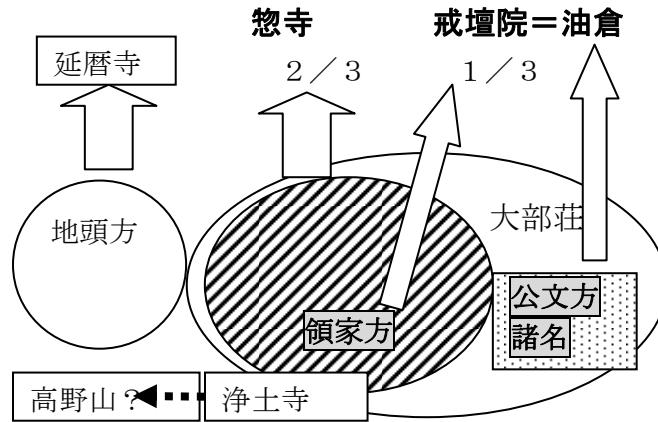
### 2-7 惣寺と戒壇院＝油倉との共同支配期 14世紀後半～文明年間（1470'S）

応永9年11月領家方（三分二）年貢算用状(ono465)、惣寺方の作成文書  
応永9年11月領家方三分一年貢算用状(一一九四号、ono468 は前半のみ)、油倉方作成の  
文書

応永9年6月17日、足利義満が、戒壇院長老に領家職（三分一）・（公文職？）・恒清名を  
安堵する。(ono467)

康暦元年5月28日、油倉坊主性誉が、豊福次郎則光を公文職に補任する。（一一七八号

ono448)



[室町時代の大部荘概念図]

戒壇院—油倉系	惣寺系
応永十一年十二月廿三日 大部荘恒清・伊王・藤七名年貢算用状 [1/12/74] 応永十一年十二月廿三日 大部荘領家方三分一方年貢算用状 [1/12/109・3/12/4] 永享七年十一月日 大部荘領家方名寄帳 [1/12/136] 文安四年十月日 大部荘領家方内検帳 [1/12/127・1/24/756-1] 文安五年十一月九日 大部荘公文方并恒清名等年貢納帳 [1/12/126] 文安六年八月日 大部荘公文方并恒清・伊王名夏秋地子帳 [1/12/137] 宝徳元年十月日 大部荘公文方内検名寄帳 [3/12/446・1/12/138-1・6] 宝徳二年十月日 大部荘領家方内検帳 [1/12/124] 宝徳二年十二月日 大部荘公文・伊王・恒清・原村年貢算用状 [1/12/88・1/25/54] 長祿元年十月日 大部荘一色方内検帳 [1/12/139] 長祿元年十一月日 大部荘在家銭帳 [1/12/134] (室町中期)六月三日大部荘百姓等申状 [1/25/647] *油倉宛#	(応永廿六年カ) 東大寺公人成清・友清 大部荘領家方三分二請文 [1/12/54] 正長二年六月日 東大寺衆徒群議事書案 [1/12/71] 永享三年二月十九日 大部荘領家方三分二代官職充行状案 [1/12/119] 永享十一年十一月六日東大寺公人成清 大部荘領家方三分二代官職請文 [1/12/51] * []内は、東大寺図書館架番号

[この時期の文書の一例]

【この時期の伝来文書の特徴】

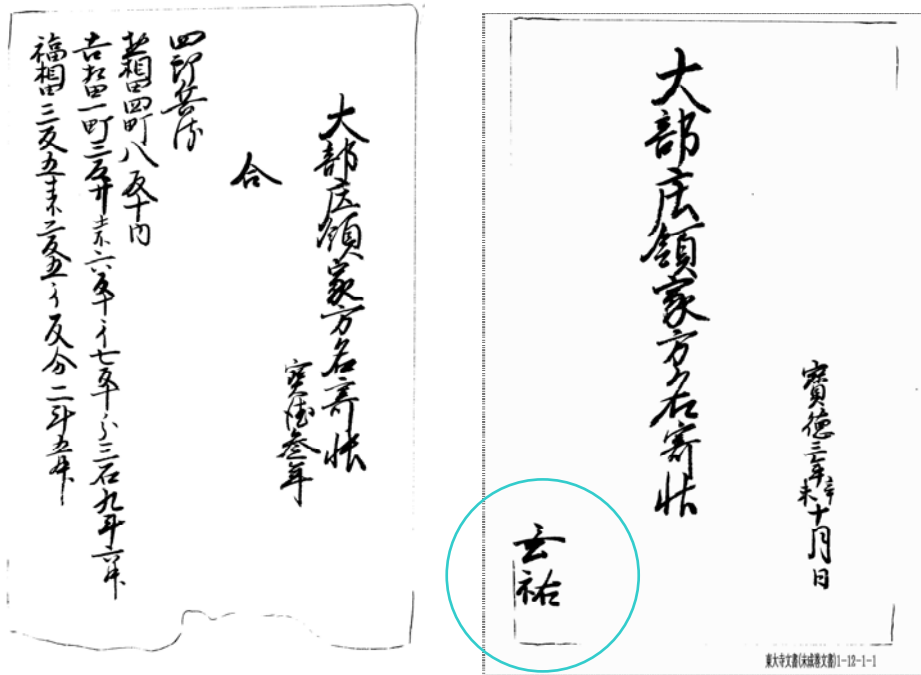
百姓申状など、大部荘現地作成文書が多数残っている。# 同時期に、戒壇院=油倉が支配

した遠江蒲御厨でも、同じ。

大部荘現地の田地の面積・場所・耕作人・収穫量を詳細に記した帳簿が残っている。

→戒壇院・油倉が、直接荘園経営に携わっていたことを示す。

\* これに対して、領家方三分二を支配した東大寺惣寺は、代官制をとっており、経営には直接関わっていない。



[大部荘の土地帳簿の一例]

## 2-8 学侶による一時的な立て直し

永正2年以後、年預五師発給の切符（ono584 他）や、年預五師あての大部荘年貢送り状（ono588 他）が残っている。

最後の文書は、天文6年6月17日の未進年貢算用状（ono602）

## まとめ

大部荘の歴史を、パズルにたとえるならば、いま私たちの手元にあるピースは、不完全なものである。

しかし失望ばかりもしてられない。失われたピースを空想しながら、現在残されたピースを、適切な場所に、はめ込んでいく作業を進めるべきであろう。また残されたピースの性格を十分に理解した上で、残されたピースから、より豊かな情報を引き出すことが求められる。